徳島県立鳥居龍蔵記念博物館年報

第 15 号（令和 6 年度）

Annual Report of the Tokushima Prefectural Torii Ryuzo Memorial Museum
No.15（for the fiscal year of 2024）

目　　次

Ⅰ　展覧事業……2

1．常設展
2．企画展
3．特別陳列
4．その他の展示
5．展示関係出版物

Ⅱ　調査研究事業……8

1．令和６年度の調査概要
2．研究成果の公表

Ⅲ　資料収集保存事業……10

1．館蔵資料数
2．寄贈資料
3．資料貸出
4．写真・映像等の提供
5．資料閲覧
6．資料整理ボランティア
7．資料の保存

Ⅳ　普及教育事業……12

1．普及行事
2．学校教育の支援
3．講師の派遣
4．テレビ・ラジオへの出演
5．インターネットによる情報発信
6．鳥居龍蔵記念 徳島歴史文化フォーラム
7．鳥居龍蔵記念
　全国高校生歴史文化フォーラム
8．普及教育関係出版物

Ⅴ　台湾との交流……18

1．共同調査の実施
2．台湾への訪問

Ⅵ　管理運営……20

1．組織・職員
2．防災及び危機管理
3．鳥居龍蔵記念博物館協議会
4．博物館ネットワーク
5．各種研修会への参加
6．視察等来訪者

Ⅶ　観覧者統計……23

Ⅷ　施設の概要……25

1．沿革
2．施設の概要

Ⅸ　例規……26

Ⅰ　展覧事業

鳥居龍藏記念博物館の展示は、常設展と企画展、その他の展示からなる。

常設展は、鳥居龍藏の生涯と研究業績を分かりやすく学ぶことができるよう3つの展示室で構成している。

東アジア各地における鳥居の調査ルートをLEDランプで示す床地図､遼王朝の陵墓の復元模型とともに、収集した資料や写真を通して龍藏の足跡が学べる展示内容としている。土器パズルや民族衣装などの体験学習キット、映像資料が検索・閲覧できるパソコンや、随時展示替えする「トピックコーナー」も設置している。

また、常設展以外に、期間を限定し、特定のテーマに即して開催する企画展等がある。6年度は、企画展を1 回、特別陳列を1回、その他の展示を2回開催した。

1．常設展

⑴　展示構成

■第1展示室　鳥居龍藏の見たアジア

鳥居龍藏のアジア調査の成果について、地域別に概観できるよう構成している。写真や民族・考古資料を幅広く紹介している。

1．台湾・中国西南部
2．中国東北部・内モンゴル
3．遼
4．朝鮮半島
5．千島列島・サハリン・シベリア
6．日本列島

■第2展示室　鳥居龍藏の生涯

人類学を志した徳島での少年時代から、やがて東京に移ってからの研究、家族とともに携わった調査など、生涯にわたる足跡や多彩な交流の様子を紹介している。

1．人類学への志
2．家族とともに
3．南アメリカ

■第3展示室　鳥居龍藏から学ぶもの

検索機能を備えたパソコンを設置したり書籍を配架したりして、鳥居の学問的な成果が学べるとともに、子どもも楽しめる体験学習キットを用意している。

1．情報コーナー（パソコンを使った鳥居龍藏撮影の写真の検索・閲覧や番組型コンテンツの提供）
2．体験展示（土器パズル、カメラ体験、民族衣装の試着（帽子のみ)、ジグソーパズル）
3．図書コーナー（鳥居龍藏の著作などの閲覧）

⑵　トピックコーナーの展示替え

平成24年度から、第2展示室内の一部をトピックコーナーとし、整理の進んだ資料を中心に、随時展示替えを行っている。6年度の実績は次のとおりである。

●鳥居きみ子の手紙

4月2日（火）～7月28日（日）
展示資料2点（館蔵資料2点）

鳥居龍藏の妻で、モンゴルでフィールドワークを行った人類学研究者鳥居きみ子（1881～1959）が、フランス留学中の息子・龍雄に宛てた手紙などを紹介した。

●鳥居龍藏が収集した中国の白磁―1933年、中国東北部・内モンゴル調査から―

7月30日（火）～12月8日（日）
展示資料24点（館蔵資料24点）

鳥居龍藏は、1933年に中国東北部・内モンゴル調査を調査した際、慶州城（中国・内モンゴル自治区赤峰市所在）で白磁片を収集した。その白磁片を公開するとともに、遼代の白磁に関する鳥居の知見を紹介した。

●鳥居龍藏による木頭の「古写真」と調査記録「那賀のあら妙」

12月10日（火）～3月30日（日）
展示資料3点（館蔵資料3点）

鳥居龍藏は、1901年8月に現在の徳島県那賀町木頭地区で人類学的・民俗学的な調査を行った。その際に作成されたフィールドノートなどを公開し、鳥居の木頭調査の概要を紹介した。

2．企画展

⑴　企画展「モンゴルのフィールドワーカー　鳥居きみ子」

鳥居きみ子（1881～1959）は、現在の徳島市に生まれ育ち、小学校の教員を務めた。ある時一念発起して修学のため上京し、東京帝国大学で人類学を研究していた同郷の鳥居龍蔵と出会い、結婚した。きみ子は、龍蔵との出会いをきっかけに人類学に関心をいだくようになる。後には、生まれたばかりの娘を連れた、家族３人でのフィールドワークを通じ、モンゴルの文化や風俗に関する貴重な記録を残した。また、絵本などで有名な「スーホの白い馬」という話にも登場する、モンゴルの伝統楽器「馬頭琴」の名付け親ともいわれている。

この展示では、きみ子が残した旅の日記をはじめ、家族や友人と交わした手紙などから、モンゴルのフィールドワーカー鳥居きみ子の人物像を紹介した。

●主　催　徳島県立鳥居龍蔵記念博物館
徳島県立博物館

●会　場　徳島県立博物館企画展示室

●会　期　11月２日（土）～12月８日（日）
（開館日数32日）

●展示構成

プロローグ　モンゴルのフィールドワーカー
鳥居きみ子
Ⅰ　誕生から鳥居龍蔵との出会い
Ⅱ　遥かなる大地に誘われて―きみ子が見たモンゴル―
Ⅲ　モンゴル研究者として、家庭人として
エピローグ　晩年の日々

●展示資料総点数　237点（館蔵資料211点）

●観覧料

一般200円（65歳以上100円）
高校・大学生100円、小・中学生50円

●観覧者数　1,551人

●関連行事

①記念講演会
日　時　11月24日（日）13：30～15：00
会　場　徳島県立博物館　講座室
講師・演題
小長谷有紀氏（国立民族学博物館名誉教授）
「鳥居きみ子のフィールドワーク―時代を超えた、その意義―」
参加者　41人

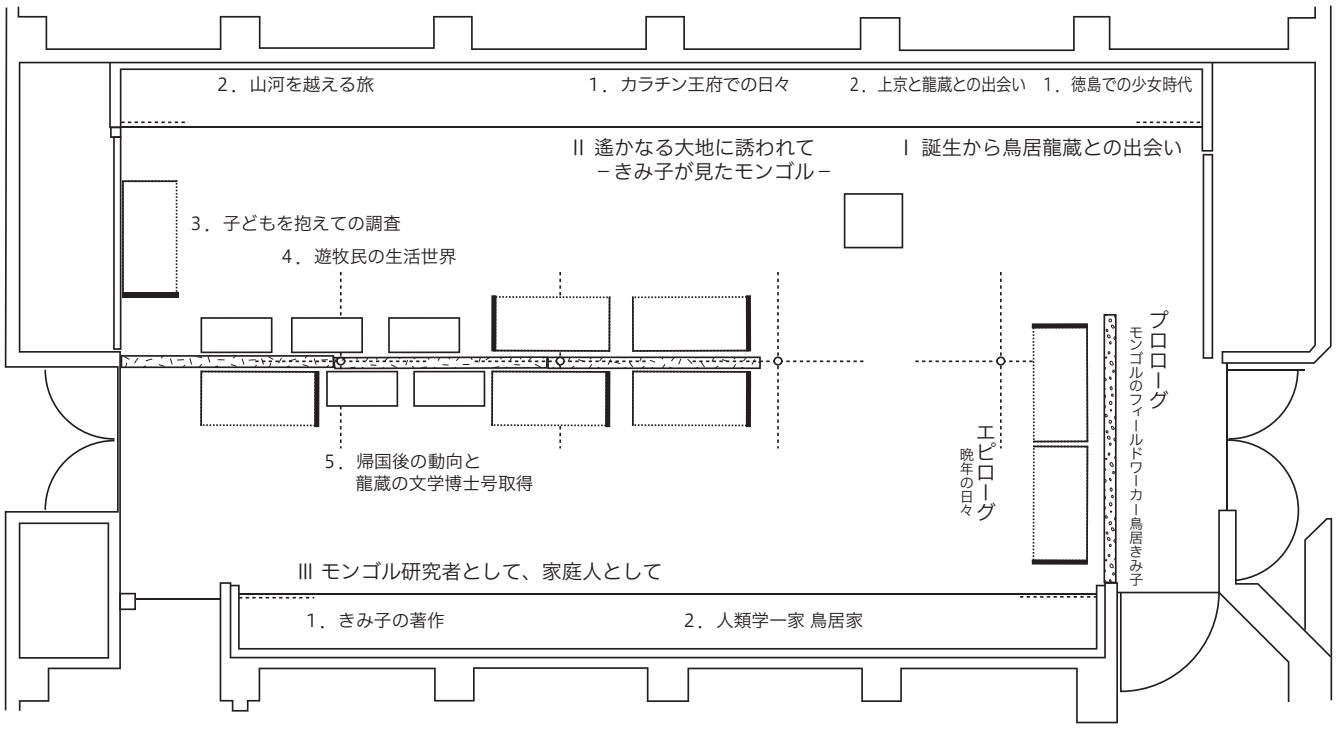
②特別トーク
日　時　11月３日（日・祝）　13：30～14：30
会　場　徳島県立博物館　企画展示室
講師・演題
竹内紘子氏（児童文学作家）
「赤ちゃんと共にモンゴルへ―民族学者・鳥居き





企画展のチラシ（左：表面 / 右：裏面）

4　展覧事業



企画展の展示配置　　0　2m



展示の様子



記念講演会の様子



展示解説の様子



特別トークの様子

み子―」
参加者　55人
③展示解説
第１回　11月23日（土・祝）
15：00～16：00　参加者　12人
第２回　12月８日（日）
13：30～14：30　参加者　24人

３．特別陳列

⑴　企画展「自然とともに生きる人びと―台湾先住民族と徳島の生活文化―」

徳島出身の人類学・考古学の研究者である鳥居龍蔵は、1896（明治29）年から1911年にかけて、５回にわたり台湾へ赴き、先住民族からの聞き取りを行うとともに、これにもとづくメモ、スケッチなどの記録を作成した。台湾の先住民族は、自然環境に対する経験的な知識を持ち、自然と共生する生活文化を育んできた。今も、そうした文化の継承と創造が続けられている。

展示では、鳥居による台湾調査を概観するとともに、国立台湾史前文化博物館が制作したパネルをもとに、先住民族が受け継いできた自然と共生する文化を紹介した。あわせて、意外に近しい台湾と徳島の生活文化の関係にもふれた。

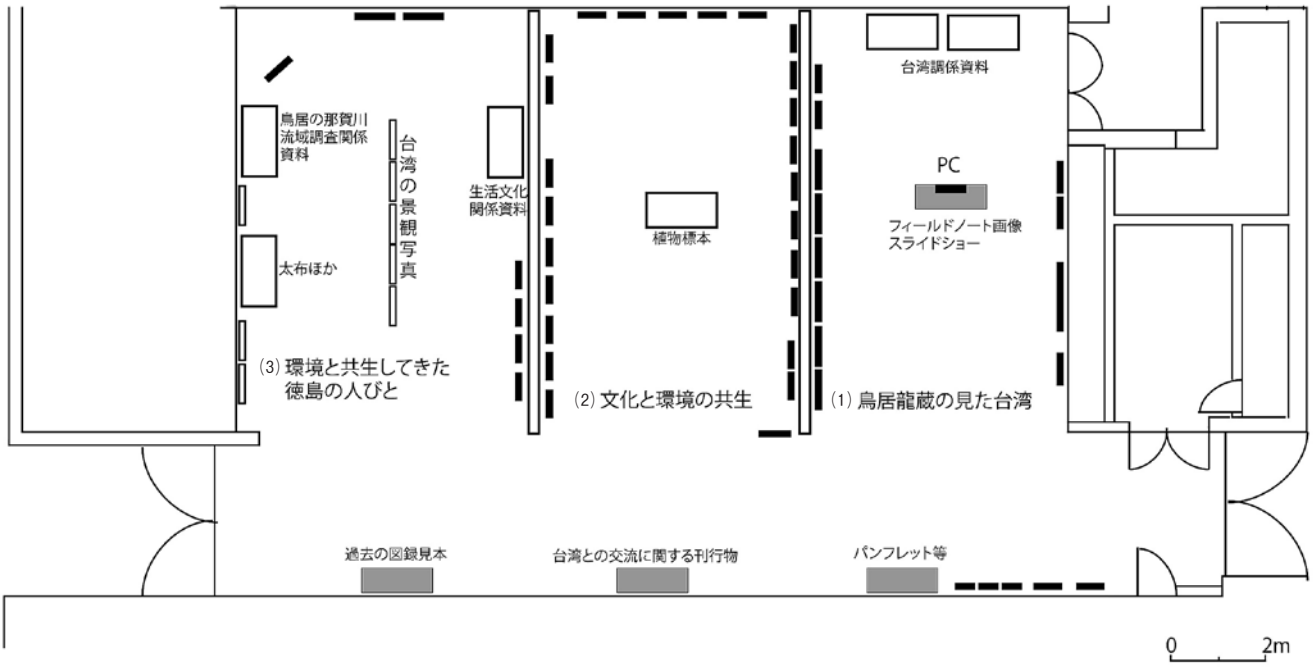
なお、この展示は、徳島県立博物館・公益財団法人アイヌ民族文化財団主催の令和６年度アイヌ工芸品展「アットゥシと太布―糸がつなぐ文化」と連携して開催した。



特別陳列のチラシ

●**主催**　徳島県立鳥居龍蔵記念博物館
●**特別協力**　国立台湾史前文化博物館
●**会場**　文化の森 多目的活動室
●**会期**　１月18日（土）～３月２日（日）
●**展示構成**
⑴　鳥居龍蔵の見た台湾
⑵　文化と環境の共生―台湾先住民族の文化と環境知識―
⑶　環境と共生してきた徳島の人びと
●**展示資料総点数**　20点（館蔵資料12点）
●観覧料　無料
●観覧者数　4,746人
●関連行事
①講演会「鳥居龍蔵と台湾先住民族」
日　時　３月２日（日）　13：30～15：45
会　場　文化の森多目的活動室
講師・演題
⑴張　至善氏（国立台湾史前文化博物館）
（通訳　山西弘朗氏（香川大学））
「台湾原住民環境知識在当代的応用（台湾先住民族の環境知識と現代的応用）」
⑵吉原秀喜氏（北海道平取町アイヌ施策推進課）
「諸民族をつなげる縁としての鳥居龍蔵と関係資料―アイヌ文化の郷・北海道平取地域からの俯瞰―」
参加者　58人
②展示解説
日　時　２月２日（日）　15：00～15：30
参加者　36人


展示の様子



特別陳列の展示配置



張至善氏による講演の様子



吉原秀喜氏による講演の様子

4．その他の展示

(1)　2階中央ロビーでの展示

常設展示室前の2階中央ロビーで、小規模な展示を行った。

●台湾・蘭嶼で調査を行いました！

期　　間　8月6日（火）～12月15日（日）

展示資料　2点（館蔵資料2点）

令和6年6月、当館職員3名が台湾・蘭嶼を訪問し、国立台湾史前文化博物館と共同で調査を行った。台湾・蘭嶼及び調査の様子を写真等で紹介した。

(2)　2024年度文化の森人権啓発展

文化の森6館と徳島県教育委員会人権教育課の共催で、人権問題啓発展（識字学級生の作品を中心とする展示）を行った。

●主催　文化の森6館、徳島県教育委員会人権教育課

●期間　12月4日（水）～12月10日（火）

●会場　近代美術館ギャラリー（展示）

二十一世紀館ミニシアター（ビデオ上映）

●入場者数　383人

5. 展示関係出版物

●企画展図録「モンゴルのフィールドワーカー　鳥居きみ子」

2024年11月２日発行、Ａ４判、37ページ、500部



企画展図録の表紙

Ⅱ　調査研究事業

鳥居龍藏記念博物館では、鳥居龍藏とその周辺に関する調査研究を進めることで、最新の情報を盛り込んだ展示や内容豊かな普及活動による鳥居龍藏の顕彰を図るための基盤整備を進めている。とくに、館蔵資料に即した調査研究に重点を置いて取り組んでいる。

令和６年度は、専任の学芸スタッフ５名を中心に、兼務職員とともにこの業務に携わった。

1. 令和６年度の調査概要

⑴　館外研究者との共同調査

館外の研究者とともに次のとおり資料調査等を行い、相互に研究の進展を図った。

●JFE21世紀財団アジア歴史研究助成事業「鳥居龍藏の契丹研究について――未公刊原稿の分析」（代表：中生勝美氏［桜美林大学］）の資料調査

４月８日（月）から10日（水）にかけて、中生勝美氏（桜美林大学）と古松崇志氏（京都大学）とともに、当館で資料調査を行った。

また、７月12日（金）に、中生勝美氏、古松崇志氏、佐藤若菜氏（京都女子大学）とともに、京都大学総合博物館で遼代の陵墓壁画を調査した。当館からは、長谷川賢二、松永友和、下田順一、坂東泰が参加した。

●科学研究費助成事業「民族誌アーカイブズとフィールド調査の接合による植民地初期台湾の先住民社会の探究」（代表：野林厚志氏［国立民族学博物館］）の研究会

７月13日（土）に、新大阪セミナーオフィスで研究会が行われた。当日は、野林厚志氏、角南聡一郎氏（神奈川大学）、清水純氏（日本大学）、田本はる菜氏（成城大学）、熊谷俊之氏（熊谷撮影工作室）が参加したほか、宮岡真央子氏（福岡大学）、林淑美氏（京都大学）がオンライン形式で参加した。当館からは、長谷川賢二、松永友和、下田順一、坂東泰が参加した。

●東京大学総合研究博物館での考古資料調査

８月20日（火）から22日（木）に、東京大学総合研究博物館が所蔵する台湾関係の考古資料を調査した。調査には野林厚志氏（国立民族学博物館）、宮岡真央子氏（福岡大学）、角南聡一郎氏（神奈川大学）が参加した。

また、２月18日（火）から20日（木）にも、同博物館で台湾関係の考古資料を調査した。調査には、野林氏、宮岡氏、角南氏、曾于宣氏（国立台湾史前文化博物館）が参加した。

いずれの調査とも、当館からは、植地岳彦、松永友和、下田順一、坂東泰が参加した。



京都大学総合博物館での資料調査



東京大学総合研究博物館での資料調査

⑵　フィールドノート講読会

当館は、鳥居龍藏が台湾調査の際に作成したフィールドノート群を所蔵している。それらの資料を調査することは、鳥居が行った台湾調査の具体相を解明する上で､不可欠な作業である｡4年度から開始したフィールドノート講読会を、6年度も引き続き実施した。講読会の開催日程と、各回の報告担当者は、以下のとおりである。

4月19日（金）　松永友和
5月14日（火）　松永友和、小林篤正、坂東　泰
6月27日（木）　松永友和
7月23日（火）　坂東　泰
8月27日（火）　宮岡真央子
9月6日（金）　石井伸夫
10月25日（金）　長谷川賢二
11月22日（金）　小林篤正
12月11日（水）　野林厚志
1月24日（金）　野林厚志
2月4日（火）　坂東　泰、石井伸夫
3月12日（水）　石井伸夫、松永友和

2. 研究成果の公表

⑴　公表論文・報告・記事等一覧

〈学術的著述〉

石井伸夫（2024.12）「東京大学総合研究博物館標本資料報告第134号　東京大学総合研究博物館人類先史部門所蔵　鳥居龍藏博士撮影　阿波国仁宇谷(木頭)地方古写真」, 東京大学総合研究博物館：90p.

〈一般著述〉

坂東　泰(2024.10)（今季の逸品)幻の学位論文　草稿 . NEWS LETTER(6)：1.

小林篤正（2024.10）2024年度企画展　モンゴルのフィールドワーカー鳥居きみ子 . NEWS LETTER(6)：2-3.

植地岳彦（2024.10）（資料整理の最前線）鳥居龍藏記念博物館所蔵の写真乾板について―現状と課題―. NEWS LETTER(6)：4.

松永友和（2024.10）台湾・蘭嶼で鳥居龍藏の足跡をたどる . NEWS LETTER(6)：5.

長谷川賢二（2024.10）鳥居龍藏の未刊原稿に関する共同研究始まる . NEWS LETTER(6)：6.

坂東　泰（2024.10）「アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク」とウポポイ . NEWS LETTER(6)：7.

植地岳彦（2025.3）（今季の逸品）龍藏ときみ子の結婚記念品―ヘルマンとドロテーアの石膏像 . NEWS LETTER(7)：1.

石井伸夫（2025.3）（資料でたどる、鳥居龍藏の学問と生涯）第6章　鳥居龍藏による木頭調査の「古写真」とフィールドノート「那賀のあら妙」. NEWS LETTER(7)：2-3.

小林篤正（2025.3）（資料整理の最前線）新出の手紙資料からわかる鳥居きみ子の人物像について . NEWS LETTER(7)：4.

松永友和（2025.3）鳥居龍藏の台湾関係資料を調査する―2024年度、徳島での共同学術調査―. NEWS LETTER(7)：5.

長谷川賢二（2025.3）鳥居龍藏･きみ子夫妻の墓―「トリーデなると（旧鳥居記念博物館)」を訪ねよう―. NEWS LETTER(7)：6.

坂東　泰（2025.3）鳥居龍藏の中国西南部調査と苗族先住説 . NEWS LETTER(7)：7.

⑵　学会・研究会等での報告

長谷川賢二（2024.7）分担研究の状況（2022～24年度）. 科学研究費助成事業「民族誌アーカイブズとフィールド調査の接合による植民地初期台湾の先住民社会の探究」（代表：野林厚志氏［国立民族学博物館］）研究会（大阪）.

松永友和（2024.7）鳥居龍藏の台湾調査フィールドノートについて . 科学研究費助成事業「民族誌アーカイブズとフィールド調査の接合による植民地初期台湾の先住民社会の探究」（代表：野林厚志氏）研究会（大阪）.

Ⅲ　資料収集保存事業

鳥居龍藏記念博物館では、鳴門市にあった旧館（鳥居記念博物館）から引き継いだ資料の詳細な調査・整理やデータ登録、保存を資料収集保存事業の中心としている。令和６年度は、会計年度任用職員２名の補助を得て作業を進めた。

また、鳥居龍藏に関連する資料の新規購入にも努めた。7年度以降も引き続き、新規収集を心がけていきたい。

1. 館蔵資料数

当館は考古資料・民族資料・書籍類・写真・拓本・自筆原稿・書簡等を所蔵しており、その総数は約70,000点である。調査・整理を継続しており、実数は未だつかめていないが、未開封だった資料の精査が進んできたため、確認済み資料の総数は増加傾向にある。

また、6年度は、今後の企画展等の開催計画や情報収集、展示資料の充実を考慮して、一次資料や参考図書を計140点購入した。

2. 寄贈資料

①鳥居家ゆかりのお盆　1点
王　世民氏

②鏃等　4点
丸山秀男氏

3. 資料貸出

①千島調査のフィールドノート　1点
国立アイヌ民族博物館

②民族衣装　7点
徳島市津田保育所

4. 写真・映像等の提供

①モンゴル調査出発前に撮影された鳥居龍藏夫妻の写真　1点
株式会社教育評論社（出版物掲載）

②三谷遺跡の発掘調査に立ち会う鳥居龍藏の写真　1点
徳島市上下水道局（出版物掲載）

③徳島県立鳥居龍藏記念博物館の外観・展示室写真　2点
株式会社エニイクリエイティブ（出版物掲載）

④鹿児島県立図書館で講演する鳥居龍藏の写真ほか　4点
指宿市考古博物館　時遊館 COCCO はしむれ（出版物掲載）

⑤鳥居龍藏の肖像写真ほか　3点
大川哲子氏（出版物掲載）

⑥鳥居龍藏の肖像写真ほか　2点
薩摩川内市川内歴史資料館（パネル展示）

⑦フィールドノート「たかさごのたび　一」ほか　3点
福岡大学　宮岡真央子氏（出版物掲載）

⑧原稿を執筆する鳥居龍藏の写真　1点
アルベルト・ブツォーラ氏（出版物掲載）

⑨鳥居龍藏の肖像写真　1点
鹿角市先人顕彰館（パネル展示）

5. 資料閲覧

①千島調査のフィールドノート　1点
国立アイヌ民族博物館　関口由彦氏、是澤櫻子氏

②遼の研究に関する未公刊原稿　5点
桜美林大学　中生勝美氏
京都大学　古松崇志氏

③鴨緑江沿いの手書き地図ほか　4点
韓国国立中央博物館　金珍京氏

④原稿「上代の芝に就いて」ほか　9点
東京都教育庁　平田　健氏

⑤大野延太郎（雲外）筆掛け軸　1点
東京大学　藏田愛子氏

⑥備中・吉備郡内遺跡出土遺物のスケッチ　22点
岡山県立博物館　宇垣匡雅氏

6. 資料整理ボランティア

平成25年度から、歴史文化倶楽部（シルバー大学校及び同大学院の歴史文化講座修了者の会）の会員等か

らなるボランティアの協力を得て、館蔵資料の整理作業を進めている。

６年度も月１回程度のペースで活動を行い、必要に応じて有識者の助言を得ながらデータの蓄積を図った。活動実施日は次のとおりである。

第１回　４月26日（金）
第２回　５月15日（水）
第３回　７月５日（金）
第４回　７月17日（水）
第５回　９月11日（水）
第６回　11月13日（水）
第７回　12月18日（水）
第８回　１月29日（水）
第９回　３月12日（水）



ボランティア活動の様子

7. 資料の保存

⑴　資料の燻蒸

害虫やカビは、資料を劣化させる原因となる。そこで、企画展で展示した資料や資料整理を終えた資料などは、収蔵庫への搬入に先だって、原則としてすべて燻蒸を行う必要がある。なお、当該資料の燻蒸作業は、文化財専門の燻蒸業者に委託している。

令和７年３月まで燻蒸に用いてきた薬剤の販売が中止となったため、代替ガスや炭酸ガスを用いた燻蒸など、当館所蔵資料に有効な有害虫菌対策を検討した。

⑵　収蔵庫における環境管理

収蔵庫への出入りなどにともなって、害虫やカビなどが侵入する恐れがあることから、定期的に清掃を実施し、虫菌害の防除に努めている。

また、収蔵庫内の空気について検知管で調査したところ、アンモニアがやや強く検出された。東京文化財研究所が示す上限値に達するものではないが、庫内の空気が浄化されずにアンモニアが蓄積していると考えられる。空気調和設備にケミカルフィルターを増設するといった設備面での対策が必要である。

⑶　常設展示室における環境管理

常設展示室は、収蔵庫のような密閉可能な空間ではないため、害虫の侵入を防ぐことができず、また、展示室全体の燻蒸が不可能である。そこで、害虫への対策として、忌避剤の設置及び粘着トラップによる文化財害虫の調査を行っており、６年度も実施した。

Ⅳ　普及教育事業

鳥居龍藏記念博物館における普及教育事業は、鳥居龍藏の顕彰を推進するための県民に対する情報発信の意味をもち、重要である。また、調査研究や資料収集保存の成果を示すという意味でも、展示とともに意義深い事業といえる。

1. 普及行事

令和６年度は、鳥居龍藏セミナーや企画展関連行事などを行い、普及啓発に努めた。

■鳥居龍藏セミナー

この事業は、鳥居龍藏の学説や調査活動などをそれぞれのテーマに沿って、専門講座を実施することにより、鳥居の生涯や業績を多くの方々に理解してもらい、その顕彰に寄与するものである。

・５月26日（日）
第１回「鳥居龍藏記念博物館所蔵のガラス乾板
―保存と活用を考える―」　植地岳彦　21人
・６月23日（日）
第２回「鳥居龍藏とその家族の映像資料」
石井伸夫　18人
・７月28日（日）
第３回「鳥居龍藏、中国の石窟寺院を調査する」
下田順一　23人
・９月29日（日）
第４回「鳥居龍藏の博士号取得と東洋史学」
坂東　泰　18人
・12月15日（日）
第５回「鳥居龍藏の徳島県調査
―県南地域を中心に―」
岡本和彦氏（小松島市教育委員会生涯学習課）
向井公紀氏（阿南市市民部文化振興課）　24人
・１月19日（日）
第６回「鳥居きみ子の生涯について」
小林篤正　26人

■企画展「モンゴルのフィールドワーカー　鳥居きみ子」関連行事

・特別トーク
11月３日（日・祝）
竹内紘子氏（児童文学作家）
「赤ちゃんと共にモンゴルへ―民族学者・鳥居きみ子―」　55人



鳥居龍藏セミナー（第５回）の様子

・展示解説
第１回　11月23日（土・祝）　12人
第２回　12月８日（日）　24人
・記念講演会
11月24日（日）
小長谷有紀氏（国立民族学博物館名誉教授）
「鳥居きみ子のフィールドワーク―時代を超えた、その意義―」　41人

■特別陳列「自然とともに生きる人びと―台湾先住民族と徳島の生活文化―」関連行事

・講演会
３月２日（日）
張　至善氏（国立台湾史前文化博物館）
（通訳　山西弘朗氏（香川大学））
「台湾原住民環境知識在当代的応用（台湾先住民族の環境知識と現代的応用）」
吉原秀喜氏（北海道平取町アイヌ施策推進課）
「諸民族をつなげる縁としての鳥居龍藏と関係資料―アイヌ文化の郷・北海道平取地域からの俯瞰―」　58人
・展示解説
２月２日（日）　36人

■夏休み自由研究スペシャル

８月４日（日）
みんなで発見‼鳥居龍藏を知ろう‼　14人

■鳥居龍藏ゆかりの地を歩こう

３月16日（日）
寺町（観善小学校跡地、錦竜水、滝薬師の石柱、円徳寺）、鳥居龍藏生誕の地、城山貝塚

参加者　6人

■文化の森共同イベント

・5月5日（日・祝）
「文化の森　こどもの日フェスティバル」（パズルとすごろくで楽しもう・文化の森ウォークラリー）
527人

・8月11日（日・祝）
「文化の森　サマーフェスティバル」（手作りカメラで写そう、いろんな民族衣装を着てみよう・文化の森ウォークラリー）　971人

・11月3日（日・祝）
「文化の森　秋祭り」（ぬり絵パズルとすごろくで楽しもう・文化の森ウォークラリー）　362人

・2月11日（火・祝）
「文化の森　ウィンターフェスティバル」（ぬり絵を楽しもう・馬頭琴をひいてみよう・文化の森ウォークラリー）　1,196人

2. 学校教育の支援

徳島県立博物館が主催した「教員のための博物館の日 in 徳島」（7月24日（水））に、協力館として参画した。

3. 講師の派遣

・7月30日（火）　坂東　泰
「鳥居龍蔵と草創期の東洋史学」（徳島県シルバー大学校講義、小松島総合福祉センター）

・8月10日（土）　長谷川賢二
「鳥居龍蔵の古代民族史論」（講座　阿波を学ぶ（歴史編 VI）、吉野川市アメニティセンター）

・9月18日（水）　下田順一
「人類学者 鳥居龍蔵」（徳島県シルバー大学校大学院講義、徳島県立総合福祉センター）

・10月19日（土）　坂東　泰
2024年度博物館アワカルト講座　第3回　共通テーマ「町」（徳島市内を歩きながら、鳥居龍蔵ゆかりの史跡を解説した［徳島城跡～新町橋～寺町周辺］）

・2月17日（月）　小林篤正
「鳥居龍蔵とその時代」（シルバー大学校講義、上板町老人福祉センター）

4. テレビ・ラジオへの出演

事業のＰＲのためのテレビへの出演等を、月日・出演者・内容の順に記す。

・11月27日（水）～12月21日（土）（毎週水曜日･土曜日）
小林篤正
AIテレビ「テレビミュージアム」（企画展「モンゴルのフィールドワーカー鳥居きみ子」について）

・10月20日（日）、11月10日（日）　小林篤正　四国放送ラジオ「日曜懐メロ大全集」（特集　鳥居きみ子）

5. インターネットによる情報発信

⑴　ホームページの公開

鳥居龍蔵記念博物館のホームページを開設し、事業の紹介や学習教材の提供などを行っている。主な内容は次のとおりである。

・利用案内（開館日、観覧料、交通アクセス等）
・学校教育での利用（観覧料の免除と手続き、出前授業）の案内
・常設展の紹介
・「鳥居龍蔵記念　徳島歴史文化フォーラム」及び「鳥居龍蔵記念　全国高校生歴史文化フォーラム」の紹介
・台湾との交流
・鳥居龍蔵についての紹介
・研究報告や一部の図録類のダウンロードコーナー
・ご意見コーナー

⑵　デジタルアーカイブ

当館を含む文化の森総合公園文化施設では、元年度から「徳島県文化の森デジタルアーカイブ構築事業」を実施している。6年度、当館では8点の資料を撮影した。これらのデジタルデータは、7年度に「徳島県立鳥居龍蔵記念博物館デジタルアーカイブ」において追加公開の予定である。

⑶　館蔵資料データベースの公開

2年度から開始した、館蔵資料データベースの公開を継続するとともに、データ整備作業を推進した。

6. 鳥居龍蔵記念　徳島歴史文化フォーラム

鳥居龍蔵は、徳島が生んだ世界的な学者である。彼は、人類学、民族学、考古学など多様な手法を駆使し、当時世界最先端の業績をあげたが、その礎は、地元の歴史や文化についてフィールドワークをもとに研究し、その成果を世に問いかけた少年時代の活動にあったといっても過言ではない。このような鳥居龍蔵の取り組みを記念し、徳島の中学生・高校生による歴史文化に関する自主的な研究活動を後押しすることに

より、人材の育成を図ることを目的に、平成28年度から実施しており、令和６年度で９回目となった。

なお、この事業は26・27年度に行った博学連携推進モデル事業（年報５・６号参照）の成果を踏まえて実施している。

●主催

徳島県立鳥居龍藏記念博物館
徳島県立博物館

●後援

徳島県博物館協議会

●募集内容及び条件

地域の歴史や文化に関する自主的な研究を募集した。テーマは、①特定の地域の歴史・文化に関すること（必ずしも徳島県内に限定しない）、②鳥居龍藏に関連することのいずれかとした。

また、研究の条件として、①フィールドワーク（現地での見学や聞き取り、写真撮影等の調査）を行い、その結果をもとに考察すること、②テーマに関連する博物館や資料館を利用することとした。

●募集期間

７月17日（水）～11月15日（金）

●対象（応募資格）

県内在住の中学校・高等学校及び特別支援学校（中学部、高等部）の生徒（中等教育学校の生徒及び高等専門学校３年生までの学生を含む）
※個人・グループなど、どのような形態でも参加可能

●募集結果

特定の地域の歴史・文化に関するテーマで、中学生の部10件、高校生の部２件の応募があり、中学生の部８件、高校生の部２件を口頭発表の対象とした。

●研究発表

①日　程　２月15日（土）10：00～16：30
　中学生の部　10：00～12：00
　高校生の部　13：00～16：30
②会　場　文化の森イベントホール
③参加者　46人

●審査・表彰

①審査委員
　桑原　恵氏（徳島大学名誉教授）
　佐藤正志氏（摂南大学名誉教授）
　中村　豊氏（徳島大学教授）
②審査結果
　審査の結果は次のとおりであった。

〈中学生の部〉

【優秀賞】

・「松江豊寿の軌跡を追って
　　―偉人から学ぶ惻隠の情―」
　徳島県立城ノ内中等教育学校（前期課程）
　元木日菜
・「井戸の歴史と蔵珠院まいこみ泉」
　鳴門教育大学附属中学校　原田千央

【奨励賞】

・「阿波和三盆糖の歴史」
　徳島県立城ノ内中等教育学校（前期課程）
　生田　駿
・「1300年前の古代碑「阿波国造墓碑」を読み解く」
　徳島県立城ノ内中等教育学校（前期課程）
　岡田佐々
・「近代日本経済の父 渋沢栄一について」
　徳島県立城ノ内中等教育学校（前期課程）
　木戸陽輝
・「阿波の文化遺産「藍染」について」
　徳島県立城ノ内中等教育学校（前期課程）
　渡部想介
・「渋野丸山古墳について」
　鳴門教育大学附属中学校　船場晴仁
・「土御門天皇と阿波」
　鳴門教育大学附属中学校　若木聡良

〈高校生の部〉

【優秀賞】

・「土成丸山古墳表採埴輪の検討」
　徳島県立脇町高等学校　園田映音

【奨励賞】

・「蜂須賀家万年山墓所清掃活動をとおして」
　徳島県立城北高等学校　新居稔也、金原涼太、小竹鉄平、高橋橙路、大頭賢太郎

●関連行事

①ガイダンス講座　　６月２日（日）
「フィールドワークに挑戦！」
　ガイダンス講座受講希望者を対象とし、現地を巡って基礎的な調査を体験してもらい、自主研究のスキル向上を目指した。
行　先　庄・蔵本遺跡（徳島市）
参加者　７人
②現地研修会　　11月17日（日）
「文化遺産を巡る旅」
　レポート提出予定者を対象として、地域の文化遺産を見学した。
行　先　石清尾山古墳群（香川県高松市）、富田茶臼山古墳、さぬき市歴史民俗資料館（以上、香川県さぬき市）
参加者　１人

7. 鳥居龍蔵記念　全国高校生歴史文化フォーラム

令和２年度、鳥居龍蔵生誕150周年を記念して、全国高校生歴史文化フォーラムを創設した。この事業の目的は、全国の高校生から歴史や文化に関する自主的な研究を募集し、優れた応募作品を表彰することで、その研究を行った者の活動を後押しし、未来を切り開く人材の育成を図ることである。６年度で５回目の開催となった。



徳島歴史文化フォーラム（高校生の部）の様子



ガイダンス講座の様子


現地研修会の様子

●主催

徳島県立鳥居龍蔵記念博物館

●募集内容及び条件

地域の歴史や文化に関する自主的な研究を募集した。テーマは、①特定の地域の歴史・文化に関すること、②鳥居龍蔵に関することのいずれかとした。

また、研究の条件として、①フィールドワーク（現地での見学や聞き取り、写真撮影等の調査）を行い、その結果をもとに考察すること、②テーマに関する博物館や資料館を利用すること、③調査内容や結果からの考察を、文章、図表、地図、写真等を用いて表現することとした。

●募集期間

７月17日（水）～11月15日（金）

●対象（応募資格）

高等学校及び特別支援学校（高等部）の生徒（中等教育学校の後期課程在籍の生徒及び高等専門学校３年生までの学生を含む）

●審査委員

桑原　恵氏（徳島大学名誉教授）
佐藤正志氏（摂南大学名誉教授）
中村　豊氏（徳島大学教授）

●審査

①１次審査（書類選考）を行い、優秀な研究を表彰した。
②１次審査の結果、上位の５組については、フォーラム（研究発表会）に参加し、徳島歴史文化フォーラム（高校生の部）の上位者とともに口頭報告を行ってもらい、最優秀者を選考し、表彰した。

●１次審査（書類審査）の結果

【優秀賞】

・「戦時下の神奈川第一抑留所と北足柄―日記から読み解く抑留所の実態―」
神奈川県立足柄高等学校　歴史研究部（濵﨑　要）
・「その時、私たちの街では―都市公園の石碑から探る日清戦争・日露戦争時の矢板―」
栃木県立矢板東高等学校　リベラルアーツ同好会チーム碑（印南侑璃、宇野歌恋、柿沼実來、杉山美嘉、田島　優）
・「JT（日本たばこ産業）跡地から探る矢板のたばこ産業」
栃木県立矢板東高等学校　リベラルアーツ同好会チーム煙（見山息吹、山口喜理）

・「興原古墳石材運搬の研究―古墳時代社会への道しるべ―」
長崎県立壱岐高等学校　東アジア歴史・中国語コース　歴史学専攻（片野一帆、後藤　健、須賀干城、丸山隼平）
・「近代日本の国防政策における「重要地域としての対馬」認識の形成過程」
早稲田大学高等学院　西野亮祐

【入　賞】

・「松山平野南部に伝わる伝承の謎を解く」
愛媛県立松山北高等学校　郷土研究部（藤井初佳、森川晴仁、岸本美花、森貞裕太郎、谷口凱星、山住悠里、安部大晟）
・「三津刈屋畑の戦いと地域の人々の意識」
愛媛県立松山西中等教育学校　佐伯実留、佐々木柚
・「国際電気通信足柄送信所とその役割」
神奈川県立足柄高等学校　歴史研究部（瀬戸煌生）
・「東美濃の戦国史と国衆の動向」
岐阜県立関高等学校　地域研究部（森　翔吾、渡辺俊太、岩原知哉、佐藤孝亮、土本徳哉）
・「地域の戦争の記憶を未来へ―松本市戦時中写真カラー化プロジェクト―」
長野県松本県ヶ丘高等学校　滝沢　葵

【佳　作】

・「動乱の時代を乗り越えた秋田の戦国武将―愛季・実季の政策―」
秋田県立秋田北高等学校　歴史研究部（和田蒼生）
・「歌が紡ぐ関行男と当時の背景―「関中佐功績顕彰歌」を中心に―」
愛媛県立西条高等学校　地域･歴史研究部（山田心萌、塩出養征、橋本一優、佐伯紫月、馬越結衣那）
・「大雄山鉄道の歴史」
神奈川県立足柄高等学校　歴史研究部
（池崎純生、田口晴生）
・「青谷上寺地遺跡水田復元の試み（Ⅱ）―弥生時代水田の原風景を求めて―」
鳥取県立青谷高等学校　弥生文化探求・青谷学Ⅱ（文学歴史コース）（石井優希、川角雪乃、岩田侑子、本城ちはや、吉川楓美、山田蒼太、杉本心音花、熊本鈴佳）
・「北条義時」
日本航空高等学校　通信制　鈴木　瞬

●フォーラム（発表会）

①日　程　2月16日（日）13：00～16：00
②会　場　文化の森イベントホール
③参加者　14人
④題目・発表者（発表順）



全国高校生歴史文化フォーラムの様子

・「戦時下の神奈川第一抑留所と北足柄―日記から読み解く抑留所の実態―」
神奈川県立足柄高等学校　歴史研究部(濵﨑　要)
・「その時、私たちの街では―都市公園の石碑から探る日清戦争・日露戦争時の矢板―」
栃木県立矢板東高等学校　リベラルアーツ同好会チーム碑（印南侑璃、宇野歌恋、柿沼実來、杉山美嘉、田島　優）
・「興原古墳石材運搬の研究―古墳時代社会への道しるべ―」
長崎県立壱岐高等学校　東アジア歴史・中国語コース　歴史学専攻（片野一帆、後藤　健、須賀干城、丸山隼平）
・「近代日本の国防政策における「重要地域としての対馬」認識の形成過程」
早稲田大学高等学院　西野亮祐
・「JT（日本たばこ産業）跡地から探る矢板のたばこ産業」
栃木県立矢板東高等学校　リベラルアーツ同好会チーム煙（見山息吹、山口喜理）
・「土成丸山古墳表採埴輪の検討」
徳島県立脇町高等学校　園田映音

⑤審査結果

【最優秀賞】

・「近代日本の国防政策における「重要地域としての対馬」認識の形成過程」
早稲田大学高等学院　西野亮祐

8. 普及教育関係出版物

●2023年度　鳥居龍蔵記念　徳島歴史文化フォーラム報告書

2024年７月１日発行、Ａ４判９ページ、1,000部



「鳥居龍蔵記念　徳島歴史文化フォーラム報告書」表紙

●鳥居龍蔵記念博物館 NEWS LETTER　No. 6.

2024年10月29日発行、Ａ４判８ページ、3,000部

坂東　泰「幻の学位論文　草稿」（今季の逸品）、p. 1.

小林篤正「2024年度企画展　モンゴルのフィールドワーカー鳥居きみ子」、p. 2-3.

植地岳彦「鳥居龍蔵記念博物館所蔵の写真乾板について―現状と課題―」（資料整理の最前線）、p. 4.

松永友和「台湾・蘭嶼で鳥居龍蔵の足跡をたどる」、p. 5.

長谷川賢二「鳥居龍蔵の未刊原稿に関する共同研究始まる」、p. 6.

坂東　泰「「アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク」とウポポイ」、p. 7.

●鳥居龍蔵記念博物館 NEWS LETTER　No. 7.

2025年３月31日発行、Ａ４判８ページ、3,000部

植地岳彦「龍蔵ときみ子の結婚記念品―ヘルマンとドロテーアの石膏像」（今季の逸品）、p. 1.

石井伸夫「第６章　鳥居龍蔵による木頭調査の「古写真」とフィールドノート「那賀のあら妙」」（資料でたどる、鳥居龍蔵の学問と世界）、p. 2-3.

小林篤正「進出の手紙資料からわかる鳥居きみ子の人物像について」（資料整理の最前線）、p. 4.

松永友和「鳥居龍蔵の台湾関係資料を調査する―2024年度、徳島での共同学術調査―」、p. 5.

長谷川賢二「鳥居龍蔵・きみ子夫妻の墓―「トリーデなると（旧鳥居記念博物館）」を訪ねよう―」、p. 6.

坂東　泰「鳥居龍蔵の中国西南部調査と苗族先住説」、p. 7.



「NEWS LETTER　No. 6」表紙



「NEWS LETTER　No. 7」表紙

Ⅴ　台湾との交流

当館は、令和２年度に宮岡真央子氏（福岡大学）の仲介により、国立台湾史前文化博物館との交流を始めた。４年度には、同館との間で、連携協定を締結した。６年度に行った主な活動は、以下のとおりである。

1. 共同調査の実施

12月６日（金）から11日（水）にかけて、国立台湾史前文化博物館や、その他の共同研究者とともに資料調査を行い、相互に研究の進展を図った。また、当館と国立台湾史前文化博物館の連携を記念して、令和９年度に開催を計画している共同展示（企画展）について協議した。概要は次のとおりである。

●概要

12月６日（金）

国立民族学博物館の特別展示と常設展示を視察した後、翌日以降の調査日程について協議した。

12月７日（土）

当館が所蔵する台湾関係資料について調査した後、共同展示（企画展）に関する協議を行った。

12月８日（日）

前日に続いて、当館が所蔵する台湾関係資料について調査した。

12月９日（月）

鳴門市の「トリーデなると」（旧徳島県立鳥居記念博物館）や鳥居ゆかりの鳴門市内の遺跡などを視察した。

12月10日（火）

那賀町の太布庵を訪れ、太布の製造について聞き取り調査を行ったほか、太布の原料であるコウゾが栽培されている様子を視察した。

12月11日（水）

鳥居龍蔵が台湾調査時に作成したフィールドノートを共同で解読した。その後、徳島市内の鳥居龍蔵に関連する史跡を視察した。

2. 台湾への訪問

５年度に引続き、当館職員が５月30日（木）～６月６日（木）の日程で台湾を訪問し、国立史前文化博物館及び共同研究者とともに、鳥居龍蔵の調査地である



当館所蔵資料を共同で調査する様子



那賀町の太布庵で聞き取り調査を行う様子



鳥居龍蔵のフィールドノートを共同で解読する様子

蘭嶼を調査した。また、当館と国立台湾史前文化博物館の連携を記念して、令和９年度に開催を計画している共同展示（企画展）を開催することについて協議した。参加者と訪問日程は次のとおりである。

●参加者

長谷川賢二、松永友和、小林篤正

●日程

５月30日（木）

関西国際空港から台湾の桃園国際空港へ移動した後、台北市に宿泊した。

５月31日（金）

台北市の松山空港から台東空港へ移動した。次いで、国立台湾史前文化博物館・康楽本館で調査を行った後、共同展示（企画展）の開催について協議した。

６月１日（土）

台東空港から蘭嶼空港に移動し、蘭嶼で調査を行った後、現地の朗島村に宿泊した。

６月２日（日）、３日（月）

蘭嶼での調査を引き続き行った。

６月４日（火）

蘭嶼空港から台東空港へ移動した後、国立台湾史前文化博物館・康楽本館の展示を視察した。

６月５日（水）

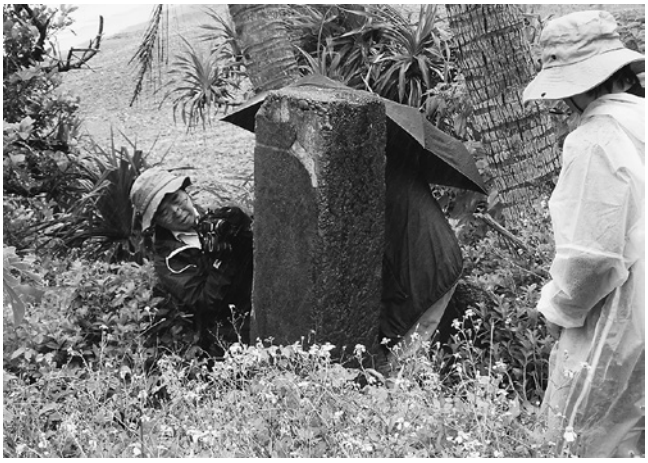
台東空港から台北市の松山空港へ移動した後、台湾大学人類学博物館と円山遺跡を視察した。

６月６日（木）

桃園国際空港から関西国際空港を経由し、帰国した。



国立台湾史前文化博物館・康楽本館での調査の様子



蘭嶼の史跡を調査する様子



蘭嶼での聞き取り調査の様子

Ⅵ　管理運営

1. 組織・職員

⑴　組織図（令和７年４月１日現在）

館長［１］― 副館長［１］― 企画・学芸担当６［７］
（事務職員［２］
学芸員４［５］、
会計年度任用職員２）
［　］は兼務者数（外数）

⑵　職員名簿（令和７年４月１日現在）

館　　長　　戸川　美史（県立博物館長本務）
副 館 長　　中澤　晴子（県立博物館副館長本務）
〈企画・学芸担当〉
課長補佐　　植地　岳彦
上席学芸員　　磯本　宏紀（県立博物館上席学芸員本務）
専門学芸員　　松永　友和（県立博物館専門学芸員本務）
係　　長　　丸山　直生（県立博物館係長本務）
係　　長　　鉄谷　雅史（県立博物館係長本務）
主　　席　　下田　順一
主　　席　　長谷川賢二（県立博物館主席本務）
主　　任　　小林　篤正
主任学芸員　　坂東　　泰
学 芸 員　　大塩啓一郎（県立博物館学芸員本務）
学 芸 員　　矢野　大輔（県立博物館学芸員本務）
会計年度任用職員　　田原　晶子
会計年度任用職員　　松家あき子

⑶　人事異動

〈令和７年３月31日付〉
退職（兼務解除・定年）：長谷川賢二・上席学芸員
退職（再任用期間満了）：石井　伸夫・主席
〈令和７年４月１日付〉
転出（兼務解除）：熊尾　雅彦・館長、東部県税局長へ
転入（兼務）：戸川　美史・館長（保健福祉部付）
磯本　宏紀・上席学芸員（県立博物館上席学芸員）
大塩啓一郎・学芸員（県立博物館学芸員）
新規採用（兼務）：矢野　大輔・学芸員
再任用（兼務）：長谷川賢二・主席

⑷　令和６年度会計年度任用職員

田原　晶子（令和6．4．1～7．3．31）
松家あき子（令和6．4．1～7．3．31）

2. 防災及び危機管理

⑴　防災及び危機管理体制

危機管理全般については、文化の森振興センターを中心に、文化の森全館の館長･副館長が協議しながら、対応する体制を整えている。また、防災について、文化の森４館棟で消防防災計画を立て、二十一世紀館、博物館、近代美術館、当館と文化の森の警備、設備、食堂等の業者で自衛消防隊を組織し、非常時に供えている。

⑵　防災訓練

二十一世紀館を中心に、10月17日（木）と２月27日（木）に防災訓練を行ったほか、県組織として随時行われる各種訓練に参加して、防災意識を高めた。

3. 鳥居龍蔵記念博物館協議会

鳥居龍蔵記念博物館協議会は、運営に関し館長の諮問に応じるとともに、館長に対して意見を述べる機関で、博物館法及び徳島県文化の森総合公園文化施設条例の規定にもとづき設置されている。委員は、県立博物館協議会委員による兼務である。

令和６年度は、徳島県立博物館協議会を兼ねて１回開催した。

●令和６年度鳥居龍蔵記念博物館協議会

日時：９月24日（火）
10：00～12：00
会場：徳島県立博物館　講座室
議事
⑴　令和５年度事業の実施状況について
⑵　令和６年度予算及び事業概要について

令和６年度鳥居龍蔵記念博物館協議会委員

（令和７年３月31日現在）

区　分	氏　名	役　職　等
学校教育	生駒　佳也	徳島県立阿南光高等学校教諭
社会教育	○安倍　久恵	フリーアナウンサー、佐古絆文化協会事務局
	森脇　崇文	徳島市立徳島城博物館主査・学芸員
	福井　春菜	徳島県立佐那河内いきものふれあいの里ネイチャーセンター自然観察指導員
学識経験	宮岡真央子	福岡大学人文学部教授
	徳原　　香	㈱あわわ　めぐる、事業部編集長
	瀬戸　恵深	㈱エフエムびざん放送部ディレクター
	◎町田　　哲	鳴門教育大学大学院学校教育研究科教授
	西　記代子	四国大学文学部講師
家庭教育	森脇佳代子	阿南市立羽ノ浦小学校 PTA

◎は会長、○は副会長

4. 博物館ネットワーク

⑴　四国地区博物館協議会

四国地区の博物館及び相当施設の連絡・協議組織で、現在74館（園）が加盟している。４県が持ち回りで２年ずつ会長・事務局を務めることになっている。令和６～７年度は徳島県立博物館が会長館を務めており、６年度は徳島市で総会や講演・研修会等が開催された。

⑵　徳島県博物館協議会

徳島県内の博物館施設が相互協力して博物館活動の振興を図ることを目的とする。令和７年３月末現在、50館が加盟しており、徳島県立博物館が事務局を務めている。６年度は次のとおり、総会や研修会が開催された。

①徳島県博物館協議会総会
（６月18日、徳島県立博物館）
②徳島県博物館協議会研修会
（11月19日、徳島市立むつみ会館、「人形のムラ」阿波木偶文化資料館）

⑶　アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク（プンカㇻ）

アイヌの歴史・文化等に関する資料情報の集約と利活用の促進等を通じて、アイヌ文化の振興と啓発に寄与することを目的とする。当館は令和５年度に加入した。７年３月末現在、73館が加盟しており、国立アイヌ民族博物館が事務局を務めている。

5. 各種研修会への参加

各種の研修会等に職員を派遣し、博物館職員としての意識改革と資質の向上に努めている。

●徳島県博物館協議会総会
会　期：６月18日（火）
会　場：徳島県立博物館
参加者：植地　岳彦

●第31回全国博物館長会議（文化庁・（公財）日本博物館協会）
会　期：７月３日（水）
会　場：文部科学省　東館３階講堂
参加者：熊尾　雅彦

●令和６年度四国地区博物館協議会（日本博物館協会　四国支部）総会
会　期：９月12日（木）
会　場：徳島県立博物館
参加者：植地　岳彦

●プンカㇻ研修会
会　期：11月７日（木）～８日（金）
会　場：国立アイヌ民族博物館
参加者：下田　順一

●徳島県博物館協議会研修会
会　期：11月19日（火）
会　場：徳島市立むつみ会館・「人形のムラ」阿波木偶文化資料館
参加者：植地　岳彦

●ポストエキヒュームＳの資料保存を考える（独立行政法人国立文化財機構）
会　期：２月21日（金）
会　場：東京文化財研究所
参加者：植地　岳彦

6. 視察等来訪者

４月４日（木）～５日（金）
関口由彦氏、是澤櫻子氏（国立アイヌ民族博物館）
４月８日（月）～10日（水）
中生勝美氏（桜美林大学）、古松崇志氏（京都大学）
９月３日（火）
金　珍京氏（韓国国立中央博物館）
12月５日（木）
韓国博物館協会一行　25人
12月７日（土）～12月11日（水）

陳　俊男氏（国立台湾史前文化博物館）一行　４人
鄭　安睎氏（国立台中教育大学）
12月11日（水）
劉　俊昱氏（国立民族学博物館）
12月15日（日）
黄　約伯氏（台湾中央研究院）
山西弘朗氏（香川大学）
１月18日（土）
高橋　俊氏（高知大学）一行　２人
２月27日（木）
平田　健氏（東京都教育庁）
２月28日（金）～３月２日（日）
張　至善氏（国立台湾史前文化博物館）一行　４人
３月２日（日）
吉原秀喜氏（北海道平取町アイヌ施策推進課）
３月７日（金）
宇垣匡雅氏（岡山県立博物館）
３月26日（水）
藏田愛子氏（東京大学）

Ⅶ　観覧者統計

●令和６年度　常設展観覧者数

月	開館日数	有料観覧者							無料観覧者																観覧者総数
		個人			団体（割引20%）			有料観覧者計	学校教育										社会福祉施設等		個人						無料観覧者計	
		一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生		幼稚・保育園		小学校		中学校		高校		計										
									園数	人数	校	人数	校	人数	校	人数	校	人数	施設	人数	小学生	中学生	高校生	障がい者	高齢者	その他		
4月	25	18	4	0	35	4	0	61	0	0	0	0	1	129	0	0	1	129	0	0	45	6	3	13	52	106	354	415
5月	27	15	6	0	44	4	0	69	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	203	19	18	15	162	612	1,029	1,098
6月	26	33	6	0	32	1	0	72	0	0	2	143	0	0	0	0	2	143	0	0	46	5	6	13	60	46	319	391
7月	26	29	7	0	28	3	0	67	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	10	57	12	5	12	54	139	289	356
8月	26	44	2	0	50	3	0	99	0	0	0	0	0	0	1	41	1	41	0	0	413	36	16	39	96	889	1,530	1,629
9月	25	33	6	1	28	2	0	70	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	126	17	12	22	142	318	637	707
10月	26	23	10	1	28	2	1	65	0	0	3	304	0	0	0	0	3	304	0	0	24	3	0	19	63	124	537	602
11月	26	8	3	0	59	3	0	73	0	0	11	555	0	0	0	0	11	555	3	62	104	16	14	20	339	614	1,724	1,797
12月	24	24	3	0	54	7	0	88	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	0	2	29	73	66	183	271
1月	23	25	3	0	29	4	0	61	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	6	29	4	4	11	64	96	214	275
2月	24	21	7	0	31	4	0	63	0	0	1	19	0	0	0	0	1	19	0	0	393	25	12	17	139	932	1,537	1,600
3月	26	39	4	0	44	7	0	94	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30	1	5	16	69	118	239	333
計	304	312	61	2	462	44	1	882	0	0	17	1,021	1	129	1	41	19	1,191	5	78	1,483	144	97	226	1,313	4,060	8,592	9,474

●常設展観覧者数累計

年度	開館日数	有料観覧者											無料観覧者															観覧者総数
		個人			団体（割引20%）			減免（割引50%）					有料観覧者計	学校教育								社会福祉施設等		個人						無料観覧者計	
								大人			高校・大学生	小・中学生		幼稚・保育園		小学校		中学校		高校		計									
		一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	高齢者	障がい者	計				園数	人数	校	人数	校	人数	校	人数	校	人数	施設	人数	小学生	中学生	高校生	障がい者	高齢者	その他		
平22	121	909	33	6	66	0	0	790	49	839	0	0	1,853	9	540	15	851	2	12	1	15	27	1,418	—	—	1,259	60	37	—	—	3,432	6,206	8,059
平23	309	895	77	13	71	44	0	556	84	640	0	0	1,740	1	90	32	2,179	7	641	3	332	43	3,242	—	—	2,950	270	214	—	—	8,510	15,184	16,924
平24	308	621	106	4	65	0	0	120	22	142	0	0	938	2	182	33	2,450	2	9	2	341	39	2,982	—	—	3,089	225	135	129	829	7,256	14,645	15,583
平25	307	506	176	4	48	48	0	—	—	—	—	—	782	10	538	36	2,197	1	3	1	142	48	2,880	—	—	2,886	294	158	203	1,071	6,382	13,874	14,656
平26	307	436	150	9	110	18	0	—	—	—	—	—	723	8	381	32	1,755	5	97	3	335	48	2,568	—	—	2,770	200	76	320	1,575	6,080	13,589	14,312
平27	308	409	105	1	266	50	5	—	—	—	—	—	836	3	250	14	644	0	0	1	37	18	931	—	—	3,334	323	168	398	2,111	7,964	15,229	16,065
平28	308	389	83	1	202	13	2	—	—	—	—	—	690	4	180	7	120	2	81	1	25	14	406	—	—	4,310	325	198	415	1,897	9,698	17,249	17,939
平29	308	338	70	1	191	21	0	—	—	—	—	—	621	5	164	5	343	1	59	3	264	14	830	—	—	3,143	267	188	238	1,697	7,203	13,566	14,187
平30	308	276	71	2	147	43	1	—	—	—	—	—	540	6	119	11	373	1	113	1	12	19	617	—	—	2,445	206	184	229	1,662	7,035	12,378	12,918
令1	307	260	51	0	130	30	4	—	—	—	—	—	475	2	56	23	697	0	0	1	32	26	785	—	—	3,020	208	160	141	1,728	8,298	14,347	14,822
令2	292	395	70	22	237	11	144	—	—	—	—	—	879	2	106	13	869	1	36	0	0	17	1,011	—	—	1,073	75	49	175	1,054	2,459	5,896	6,775
令3	301	340	105	0	255	47	0	—	—	—	—	—	747	1	72	18	1,226	0	0	1	5	20	1,303	—	—	704	82	56	119	866	2,019	5,149	5,896
令4	307	245	111	1	330	31	0	—	—	—	—	—	718	2	106	9	648	2	66	1	5	14	825	—	—	1,198	88	64	195	903	3,700	6,973	7,691
令5	307	294	65	0	474	87	2	—	—	—	—	—	922	3	125	22	1,324	1	6	0	0	26	1,455	—	—	1,278	154	86	162	1,148	3,888	8,171	9,093
令6	304	312	61	2	462	44	1	—	—	—	—	—	882	0	0	17	1,021	1	129	1	41	19	1,191	5	78	1,483	144	97	226	1,313	4,060	8,592	9,474
計	4,402	6,625	1,334	66	3,054	487	159	1,466	155	1,621	0	0	13,346	58	2,909	287	16,697	26	1,252	20	1,586	392	22,444	5	78	34,942	2,921	1,870	2,950	17,854	87,984	171,048	184,394

（※）平成24年９月から、高齢者（65歳以上）及び障がい者は無料。

●企画展観覧者数累計

企画展名	開催期間	開催日数	有料観覧者									無料観覧者					観覧者総数
			個人			団体（割引20%）			減免（割引50%）		有料観覧者計	社会福祉施設等		個人			無料観覧者計	
									一般									
			一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	高齢者	障がい者		施設	人数	小・中学生	高校・大学生	その他		
鳥居龍蔵の見た台湾	平24．1．28～3．11	38	549	21	1	14	1	0	559	34	1,179	—	—	1,037	20	363	1,420	2,599
鳥居龍蔵の国内調査 ―沖縄・南九州―	平26．1．25～3．2	32	270	22	0	11	0	0	139	—	442	—	—	595	9	707	1,311	1,753
よみがえる縄文世界 ―鳥居龍蔵の信州調査―	平27．1．24～3．1	32	377	40	7	78	0	0	285	—	787	—	—	805	39	1,196	2,040	2,827
鳥居龍蔵 ―世界に広がる知の遺産―	平28．1．23～2．28	32	179	19	0	94	2	0	266	—	560	—	—	309	61	901	1,271	1,831
遙かなるマチュピチュ ―鳥居龍蔵、南アメリカを行く―	平29．1．28～3．5	32	536	29	2	194	4	1	592	—	1,358	—	—	494	30	1,023	1,547	2,905
鳥居龍蔵、日本人の起源に迫る ―本山彦一との交流―	平30．2．10～3．18	32	144	10	0	49	0	0	167	—	370	—	—	283	25	1,068	1,376	1,746
鳥居龍蔵と小金井良精 ―日本人の起源を求めて―	平31．1．26～3．3	32	122	5	0	43	2	0	139	—	311	—	—	484	16	1,024	1,524	1,835
文化財調査の先覚者 鳥居龍蔵、徳島を探る	令2．2．8～3．15	32	120	9	1	49	0	0	165	—	344	—	—	312	90	735	1,137	1,481
鳥居龍蔵の学問と世界	令3．2．13～3．21	32	60	2	2	43	0	0	111	—	218	—	—	43	5	280	328	546
鳥居龍蔵と草原の遊牧王朝　遼	令4．2．5～3．13	32	106	20	0	36	2	0	141	—	305	—	—	184	8	286	478	783
鳥居龍蔵をめぐる人々	令5．2．4～3．12	32	83	5	0	31	25	0	85	—	229	—	—	203	8	807	1,018	1,247
台湾世界を行く ―鳥居龍蔵の見た海・山・ひと・ムラ―	令6．1．27～3．3	32	194	13	1	80	3	0	207	—	498	—	—	294	16	689	999	1,497
モンゴルのフィールドワーカー 鳥居きみ子	令6.11.2～令7.1.8	32	110	3	4	67	5	0	275	—	464	3	34	620	8	425	1,087	1,551
合　計		422	2,850	198	18	789	44	1	3,131	34	7,065	3	34	5,663	335	9,504	15,536	22,601

（※）平成24年９月から、障がい者は無料。

24　観覧者統計

●特別陳列観覧者数累計

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者総数
鳥居龍蔵の見た北東アジア	平23.10.29～12. 4	32	4,534
鳥居龍蔵とアイヌ	平25. 1.26～ 3. 3	32	5,465
自然とともに生きる人びと	令7. 1.18～ 3. 2	32	4,746
合　　計		96	14,745

●人権啓発展観覧者数累計

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者数
2010年度人権問題啓発展	平22.11.30～12. 5	6	670
2011年度人権問題啓発展	平23.12. 6～12.11	6	383
2012年度人権問題啓発展	平24.12. 4～12. 9	6	356
2013年度人権問題啓発展	平25.12. 4～12.10	6	341
2014年度人権問題啓発展	平26.12.10～12.16	6	315
2015年度人権問題啓発展	平27.12. 9～12.15	6	270
2016年度人権問題啓発展	平28.12. 9～12.15	6	244
2017年度人権問題啓発展	平29.12. 6～12.12	6	227
2018年度人権問題啓発展	平30.12. 5～12.11	6	382
2019年度人権問題啓発展	令1.12. 4～12.10	6	278
2020年度人権問題啓発展	令2.12. 9～12.15	6	447
2021年度人権問題啓発展	令3.12. 8～12.14	6	305
2022年度人権問題啓発展	令4.12. 7～12.13	6	262
2023年度人権問題啓発展	令5.12. 6～12.12	6	348
2024年度人権問題啓発展	令6.12. 4～12.10	6	383
合　　計		90	5,211

●利用者総数年度別一覧

年度	常設展 有料観覧者	常設展 無料観覧者	常設展観覧者合計	企画展観覧者	特別陳列観覧者	移動展等	普及行事参加者	その他	利用者総数
平22年度	1,853	6,206	8,059	—	—	—	236	670	8,965
平23年度	1,740	15,184	16,924	2,599	4,534	—	412	4,421	28,890
平24年度	938	14,645	15,583	—	5,465	—	1,968	356	23,372
平25年度	782	13,874	14,656	1,753	—	—	3,387	370	20,166
平26年度	723	13,589	14,312	2,827	—	—	4,167	336	21,642
平27年度	836	15,229	16,065	1,831	—	—	2,898	527	21,321
平28年度	690	17,249	17,939	2,905	—	8,439	4,521	844	34,648
平29年度	621	13,566	14,187	1,746	—	2,592	3,282	430	22,237
平30年度	540	12,378	12,918	1,835	—	—	3,174	649	18,576
令元年度	475	14,347	14,822	1,481	—	—	3,047	479	19,829
令2年度	879	5,896	6,775	546	—	8,230	380	1,823	17,754
令3年度	747	5,149	5,896	783	—	12,715	672	419	20,485
令4年度	718	6,973	7,691	1,247	—	21,662	3,716	682	34,998
令5年度	922	8,171	9,093	1,497	—	7,213	3,543	669	22,015
令6年度	882	8,592	9,474	1,551	4,746	13,231	3,528	529	33,059
累計	13,346	171,048	184,394	22,601	14,745	74,082	38,931	13,204	347,957

（※）特別陳列は自主事業のみの観覧者数。その他は、人権啓発展と共催事業を合わせた観覧者数

●啓発展をのぞく共催事業観覧者・参加者数

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者数
鳥居龍蔵が見た「祭り」「踊り」	平23. 7.20～23. 8.28	36	4,038
合　　計		36	4,038

（※）観覧者数は開催期間中の常設展来館者数合計。

●館内各種展示観覧者数

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者数
鳥居龍蔵の南アメリカ調査と乗り物	平29. 2. 4～29. 4.23	68	11,031
鳥居龍蔵生誕150周年「鳥居龍蔵とは!?」	令2.7.21～2.11.29	114	8,230
鳥居龍蔵が撮影した台湾 ―人々と風景―	令3.9.14～4. 2. 6	120	12,715
鳥居龍蔵の見た遼代の仏塔	令4. 8. 2～4.11.13	90	10,041
鳥居龍蔵の見た120年前の木頭 ―文化の森展	令4.11.15～5. 1. 9	43	3,042
学知のユリカゴ 台湾 ―青年 鳥居龍蔵の挑戦―（文化の森展）	令5.1.11～5. 3.16	56	5,243
合　　計		491	50,302

●館外各種展示観覧者数

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者数
移動展　鳥居龍蔵の見た120年前の木頭	令4. 8. 6～4. 9. 9	37	262
鳥居龍蔵と新町小学校	令4.10. 4～4.10.13	10	109
学知のユリカゴ 台湾 ―青年 鳥居龍蔵の挑戦―（阿南市立阿波公方・民俗資料館展）	令4.10.18～4.10.30	12	51
学知のユリカゴ 台湾 ―青年 鳥居龍蔵の挑戦―（美馬市立図書館展）	令4.11.30～4.12.19	16	1,287
学知のユリカゴ 台湾 ―青年 鳥居龍蔵の挑戦―（四国大学展）	令4.12. 3～4.12.25	20	947
学知のユリカゴ 台湾 ―青年 鳥居龍蔵の挑戦―（徳島大学展）	令5.1.11～5. 2. 2	17	680
合　　計		112	3,336

Ⅷ　施設の概要

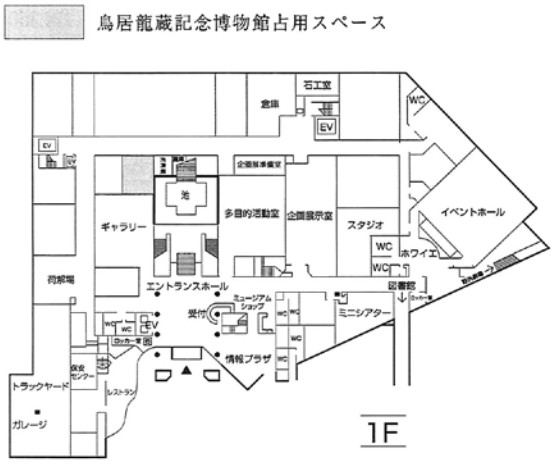
1. 沿革

昭和40年３月　鳴門市撫養町の妙見山に旧館（徳島県立鳥居記念博物館）開館
平成18年７月　鳥居龍藏博士の顕彰等に関する検討委員会設置
19年12月　鳥居龍藏博士の顕彰等に関する検討委員会が「鳥居龍藏博士の顕彰等に関する検討委員会報告書」を知事に提出
20年３月　徳島県立鳥居龍藏記念博物館展示検討委員会設置
７月　徳島県立鳥居龍藏記念博物館展示検討委員会が「徳島県立鳥居龍藏記念博物館（仮称）展示計画書」をとりまとめ
21年３月　展示実施設計完了
７月　展示工事着手
22年３月　旧館閉館
９月　展示工事竣工
11月　開館
28年１～２月　開館５周年記念事業として、企画展「鳥居龍藏―世界に広がる知の遺産―」及び国際講演会「鳥居龍藏の再発見―国内外の視点から―」を開催
令和２年４月　教育委員会から知事部局に移管
３年２月～３月　鳥居龍藏生誕150周年記念・開館10周年事業として、「鳥居龍藏生誕150周年記念全国高校生歴史文化フォーラム 2020 in 徳島」及び国際シンポジウム「鳥居龍藏と現代社会―その学問と資料の意義を問う―」などを開催
４年９月　国立台湾史前文化博物館と連携協定を締結
６年４月　博物館観覧料減免要綱の一部改正により、保育所、認定こども園の保育に係る常設展・企画展観覧料や社会福祉施設等（保育所・認定こども園を除く）による利用時の常設展・企画展観覧料を免除
５月　博物館法改正に伴い県教育委員会の博物館登録原簿に再登録

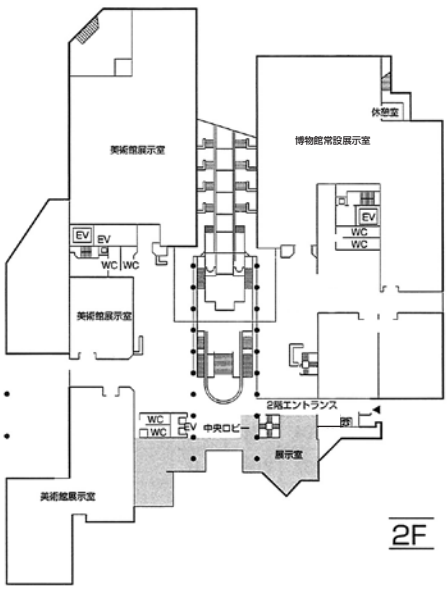
2. 施設の概要

●**所 在 地**　徳島市八万町向寺山
●**敷地面積**　40.6ha（文化の森総合公園全体）
●**延床面積**　485㎡（展示室、収蔵庫、器材庫等鳥居龍藏記念博物館占用スペース）
●**構造規模**　鉄筋コンクリート造　地上４階・塔屋１階・地下１階
●**改築工事**　岡島建築事務所(設計)･小野建設(施工)
●**展示工事**　(株) 丹青社（設計・施工）

1階平面図



2階平面図



（※）鳥居龍藏記念博物館の占用スペースのない階は平面図を省略した。

Ⅸ　例　規

●徳島県文化の森総合公園文化施設条例［抜粋］

制　　定　平成２年３月26日　　徳島県条例第11号
最近改正　令和５年３月14日　　徳島県条例第17号

（設置）

第１条　個性豊かな県民文化を振興し、魅力のある地域づくりに寄与するため、県民の文化活動の拠点として、徳島県文化の森総合公園文化施設（以下「文化施設」という。）を徳島市八万町に設置する。

（名称及び業務）

第２条　文化施設の名称及び業務は、次のとおりとする。

名　　称	業　　務
徳島県立鳥居龍蔵記念博物館 （以下「鳥居記念館」という。）	１　鳥居龍蔵に関する資料（以下「鳥居記念館資料」という。）を収集し、保管し、及び展示すること。 ２　鳥居記念館に関する調査研究を行うこと。 ３　鳥居記念館資料に関する講座等の教育普及事業を行うこと。 ４　その他鳥居記念館の設置の目的を達成するために必要な事業を実施すること。

（利用の許可）

第３条　（省略）

（観覧料等）

第４条　博物館が展示する博物館資料、美術館が展示する美術館資料又は鳥居記念館が展示する鳥居記念館資料を観覧する者に対しては、別表第１に掲げる額の観覧料を徴収する。

２　（省略）

３　知事は、特別の理由があると認めるときは、観覧料又は使用料の全額又は一部を免除することができる。

４　観覧料及び使用料の徴収の時期及び方法その他観覧料及び使用料に関し必要な事項は、規則で定める。

（損害の賠償）

第５条　文化施設を利用する者は、文化施設の施設、資料等をき損し又は亡失したときは、これによって生じた損害を賠償しなければならない。ただし、知事は、当該き損又は亡失がやむを得ない理由によるものであると認めるときは、その賠償責任の全部又は一部を免除することができる。

（職員）

第６条　図書館法（昭和25年法律第118号）及び博物館法（昭和26年法律第285号）に定めるもののほか、文化施設に、館長その他必要な職員を置く。

（協議会）

第７条　知事の附属機関として、次の表の上欄に掲げる協議会を置き、これらの協議会の所掌事務は、それぞれ同表の下欄に掲げるとおりとする。

協　議　会　の　名　称	所　掌　事　務
徳島県立鳥居龍蔵記念博物館協議会	鳥居記念館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べること。

２　協議会は、委員10人以内で組織する。

３　徳島県立図書館協議会、徳島県立博物館協議会、徳島県立近代美術館協議会及び徳島県立鳥居龍蔵記念博物館協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから任命するものとする。

4　（省略）
5　委員の任期は、２年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
6　委員は、再任されることができる。
7　前各項に定めるもののほか、協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、規則で定める。
（規則への委任）
第８条　この条例に定めるもののほか、文化施設の管理に関し必要な事項は、規則で定める。

別表第１（第４条関係）

区分		単位	金額			
			常設展		企画展	
			個人	団体（20人以上をいう。以下同じ）	個人	団体
美術館及び鳥居記念館資料	小・中学生	１人１回	50円	40円	知事がその都度定める額	
	高校・大学生等	１人１回	100円	80円		
	一般	１人１回	200円	160円		

（備考）
「小・中学生」とは小学校の児童及び中学校の生徒並びにこれらに準ずる者を、「高校・大学生」とは高等学校の生徒並びに高等専門学校及び大学の学生並びにこれらに準ずる者を、「一般」とは小・中学生及び高校・大学生等以外の者（学齢に達しない者を除く。）をいう。

●徳島県立鳥居龍蔵記念博物館管理規則

制　　定　令和２年３月24日　徳島県規則第50号
（趣旨）
第１条　この規則は、徳島県立鳥居龍蔵記念博物館（以下「鳥居記念館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。
（休館日）
第２条　鳥居記念館の休館日は、次に掲げるとおりとする。
⑴　月曜日（月曜日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときは、その日後においてその日に最も近い休日でない日）
⑵　１月１日から同月４日まで及び12月29日から同月31日まで
2　知事は、特に必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、臨時に休館し、又は同項に規定する休館日に開館することができる。
（供用時間）
第３条　鳥居記念館の供用時間は、午前９時30分から午後５時までとする。
2　知事は、特に必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、同項に規定する供用時間を変更することができる。
（遵守事項）
第４条　鳥居記念館を利用する者は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例（平成２年徳島県条例第11号）及びこの規則並びに知事が別に定める利用者心得その他の規律を守らなければならない。
（入館の禁止等）
第５条　知事は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、入館を禁止し、又は退館を命ずることができる。
⑴　泥酔者及び伝染性の疾病にかかっていると認められる者
⑵　前条の規定に違反し、又はそのおそれがある者
（資料の特別利用）
第６条　学術その他の目的のために鳥居記念館資料の撮影、模写等をしようとする者は、あらかじめ、知事の承認を受けなければならない。

（補則）
第７条　この規則に定めるもののほか、鳥居記念館の管理に関し必要な事項は、知事が別に定める。

●徳島県立鳥居龍蔵記念博物館協議会規則

制　　定　令和２年３月24日　徳島県規則第44号

（趣旨）
第１条　この規則は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例（平成２年徳島県条例第11号）第７条第７項の規定に基づき、徳島県立鳥居龍蔵記念博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（会長及び副会長）
第２条　協議会に、会長及び副会長各１人を置く。
２　会長及び副会長は、委員の互選によって定める。
３　会長は、協議会を代表し、会務を総理する。
４　副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会議）
第３条　協議会の会議は、会長が招集する。
２　協議会の会議は、委員の半数以上の出席がなければ、開くことができない。
３　協議会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

（雑則）
第４条　この規則に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

●徳島県行政組織規則［抜粋］

制　　定　昭和42年３月28日　徳島県規則第15号
最近改正　令和７年３月31日　徳島県規則第36号

第１章　総　　則（省略）
第２章　事務部局（省略）
第３節　センター等
第１款　設置等

（法令又は条例の規定により設置されたセンター等の名称等）
第34条　前条第１項に規定する機関のほか、次の表の上欄に掲げる部に、それぞれ同表の下欄に掲げる機関を設置する。

部及び局	機　　関		
	名　　称	設置の目的又は根拠法令	位　　置
観光スポーツ文化部	徳島県文化の森振興センター	徳島県文化の森総合公園文化施設の運営を総合的に推進するため	徳島市八万町

２　次の表の上欄に掲げる機関については、それぞれ同表の下欄に掲げる法令又は条例の規定により設置された機関を当該上欄に掲げる機関を構成する機関とする。

機　　関	法令又は条例の規定により設置された機関		
	名　　称	位　　置	所管区域
徳島県文化の森振興センター	徳島県立鳥居龍蔵記念博物館（以下「鳥居記念館」という。）	徳島市八万町	

第２款　内部組織及び分掌事務

（分掌事務）
第36条　センター等の分掌事務は、別表第６に掲げるとおりとする。

第３款　職及び職務

（所長）

第38条　センター等に所長（（省略）図書館、博物館、美術館、文書館、二十一世紀館、鳥居記念館（省略）にあってはそれぞれの機関の名称を冠した長（省略）。以下この款において「所長」という。）を置く。

2　所長は、上司の命を受け、当該機関の事務をつかさどり、所属職員を指揮監督する。

（副所長等）

第39条　前条に規定する職のほか、次の表の上欄に掲げる職をそれぞれ同表の下欄に掲げる機関に置く。

職	機　　関
副　館　長	⑴図書館　⑵博物館　⑶美術館　⑷文書館　⑸二十一世紀館　⑹鳥居記念館

2　副所長、副校長、副館長及び副課長の職務は、上司の命を受け、所長を補佐するものとする。

（主幹等）

第41条　前3条に規定する職のほか、必要と認めるときは、次の表の上欄に掲げる職をセンター等又はセンター内課等に置き、その職務は、それぞれ同表の下欄に掲げるとおりとする。

職	職　　務
課　　長	上司の命を受け、センター等の重要施策又は重要事業の推進に関する事務又は試験研究のうち高度の知識又は経験を必要とするものを処理する。
課長補佐	上司の命を受け、センター等又はセンター内課等の重要施策又は重要事業の推進に関する事務に従事する。
上席学芸員	上司の命を受け、博物館、美術館又は鳥居記念館の重要施策又は重要事業の推進に関する資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これらと関連する業務に従事する。
主　　査	上司の命を受け、高度の知識又は経験を必要とする事務に従事する。
専門学芸員	上司の命を受け、高度の知識又は経験を必要とする資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これらと関連する業務に従事する。
係　　長	上司の命を受け、センター等又はセンター内課等の事務に関し命ぜられた事項を処理する。
学芸係長	上司の命を受け、博物館、美術館又は鳥居記念館の資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これらと関連する業務に従事する。
主　　席	上司の命を受け、特に命ぜられた相当の知識又は経験を必要とする事務に従事する。
主　　任	上司の命を受け、相当の知識又は経験を必要とする事務又は試験研究の業務に従事する。

（主任主事等）

第42条　前38条から前条までに規定する職のほか、センター等又はセンター内課等に、別表第4の上欄に掲げる職のうち必要な職を置き、その職務は、それぞれ同表の下欄に掲げるとおりとする。

第3章　附属機関

第57条　附属機関の名称及び庶務を担当する組織は、別表第8に掲げるとおりとする。

別表第4　主任主事等の職及び職務

職	職　　務
主任主事	上司の命を受け、相当の経験を必要とする事務に従事する。
主　　事	上司の命を受け、事務に従事する。
主任学芸員	上司の命を受け、相当の経験を必要とする博物館、美術館又は鳥居記念館の資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これらと関連する業務に従事する。
学芸員	上司の命を受け、博物館、美術館又は鳥居記念館の資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これらと関連する業務に従事する。

別表第6　主任主事等の職及び職務

センター等	分　掌　事　務
鳥居記念館	⑴鳥居龍蔵に関する資料（以下「鳥居記念館資料」という。）を収集し、保管し、及び展示すること。 ⑵鳥居記念館資料に関する調査研究を行うこと。 ⑶鳥居記念館資料に関する講座等の教育普及事業を行うこと。 ⑷その他鳥居記念館の設置の目的を達成するために必要な事業を実施すること。

別表第8　附属機関の名称及び庶務を担当する組織

	名称	庶務を担当する組織
75	徳島県立鳥居龍蔵記念博物館協議会	鳥居記念館

徳島県立鳥居龍蔵記念博物館年報　第15号（令和６年度）

令和７（2025）年８月26日　発行
編集・発行：徳島県立鳥居龍蔵記念博物館
〒770−8070　徳島市八万町向寺山
（文化の森総合公園内）
Tel. 088−668−2544　Fax. 088−668−7197
Ｅメール torii-museum@bunmori.tokushima.jp
ホームページ https://torii-museum.bunmori.tokushima.jp
印　　刷：徳島県教育印刷株式会社